

## 歴史(江戸時代⑥・農業編)

幕府や藩は、土地の開墾に力を注ぎ、大きな①\_\_\_\_\_を開発した。その結果、18世紀はじめには、全国の耕地面積は、豊臣秀吉のころの約2倍に増えた。また、農具の改良も進み、田畑を深く耕すことのできる②\_\_\_\_\_や、脱穀を効率的にする③\_\_\_\_\_などにより生産力が向上した。その他にも、鉱山の採掘や精錬技術が進み、林業や水産業も発達した。

参勤交代や諸産業の発達により、陸上や海上の交通路が全国的に整備され、手紙や荷物を運ぶ④\_\_\_\_\_がさかんになった。また、大阪と江戸の間には、木綿や油、しょう油を運ぶ⑤\_\_\_\_\_船や、酒を運ぶ⑥\_\_\_\_\_船が定期的に往復するようになり、東北などの年貢米を運送するために、⑦\_\_\_\_\_と⑧\_\_\_\_\_が開かれた。

